

\* 印字して記入するか、重要だと思ふ部分や解答をノートに写すかして自習しなさい。授業が始まった頃、点検されても大丈夫なようにしておくこと。

\* ここではHPの「学年だより(国語編)」を実践しながら自習してもらいます。去年、岩佐の授業を受けていた人たちには耳蝸でしようが、復習のつもりで読んでやってみてください。本文が小さいので教科書も併用してください。

① 評論の題名(タイトルは)最も短い要約。小説では内容の象徴でしたね。

この評論では『ミロのヴィーナス』とは・・・何か、が分かれればいいわけで、

② 読み進めていく時、必ず常に題名の意味を考えながら読むことが大切です。

③ 形式段落は、ひとつ言いたいことがあって段落を作っているので、段落ごと、言いたいこと(筆者の主張)を見つめます。(要約を書くとき力がつきます)

④ 重要部分に傍線を引いたり、共通部分をイコールで結びましょう。キーワードと思われる語句や接続詞を囲ったりすることも大切です。

⑤ 評論は主張が表現を変えて繰り返し出てくるので、言い換えを見つけます。「これ・それ」などの指示語は何をさしているのか、確認しつつ読みます。

⑥ すっげー重要なのは疑問点をみつけること。?マークを付けておく。上手な書き手は読者に「ん?」と思わせて、ガイガイ次を読みたくさせるものだ。(常識的にわからないと恥ずかしい気のする単語は辞書で調べよう。外来語

や業界用語で「カッコつけてんなー」と思われる語句は言い換えが出てくる。

⑦ 特に第1、2形式段落に「これからオレはこういうことを論じていくんだか  
んねー」という問題提起や結論が書いてあるので、それをみつけるつもりで

注意深く読みます。(読者と共感できる軽いネタから入る話は、その後から)

⑧ 筆者の主張というものは、普通、一般人(僕ら)の思っているのと逆。逆でなくとも誰も気がつかないようなことが書いてあるので、「へーっ」と思うところが重要。読者に感心する心・知的好奇心があることが大切。傍線を!

では、第1形式段落を読んで、実際に①～⑧を実践してみてください。

じゃ、④からね。教科書に傍線とか引いて。(・・・3分経過、じゃ、問題)

問1 「彼女」、「僕」、「そこ」とはそれぞれ何か。「彼女く失う」の修辞法は?

問2 「不思議な思い」とあるが、どんな思いか。

問3 この段落で筆者のいいたかったことを一文でまとめてください。

①ミロのヴィーナスを眺めながら、A 彼女がこんなにも魅惑的であるためには、両腕を失っていなければならなかったのだと、僕はふと不思議な思いにとらわれたことがある。つまり、B そこには、**美術作品の運命**という制作者のあずかり知らぬものかも、微妙な協力をしているように思われてならなかったのである。

A ヴィーナスが魅惑的〜腕の喪失が必要・・・不思議な思い

US#

B そこには・・・運命が協力していると思われてならない

(制作者〜何ものか)

こんな感じ・・・「つまり」は**言い換えの重要な接続詞④⑤**

問1「彼女**ミロヴィー**」、「僕**筆者**」、「**そこ**は**ヴィーナス**が魅惑的〜失つていなければならなかった」と。「彼女〜失う」の修辞法は、**擬人法**

⑨日本人は奥ゆかしいので、あまり「僕は〜」「私は〜」とか書か(言わ)ない。だから、**本文に「僕」「私」が出てきたら、それは筆者独自の考え・主張**。ここでは「僕は〜不思議」に思った。「思われてならなかった」と**強調**している。

問2「不思議な思い」っていうのは「へーっ、不思議だなあ。運命としか思えないよね」って感じ。「思う」っていう字が共通して使われている。気づいた？**ヴィーナスが魅惑的〜失つていなければならなかった」ということ**が、制作者のあずかり知らぬ運命のように思われたこと。

もちろん、こんな長ったらしく書きたくないよね。自分で短く書き換えて。**⑩理解するということとは、自分のことばで表現し直すこと。要約能力が大事。**

問3この段落で筆者のいいたかったことをまとめた言い方にすると、

ヴィーナスは**両腕を失ったから魅惑的な美術品**となったのであり、それは**もはや不思議な運命**としか言いようがないように思われる(こと)。

・・・くらいかな。いろいろな答え方があると思う。いろんな書き方ができるとてことが実力さ。不思議なことだが、**ヴィーナスが魅惑的なのは両腕がないからだ**。とか、**ヴィーナスの美術品としての魅力は両腕がないからだ**。

あと、**美術作品の運命**って四角で囲ってみたけど、**キーワード**っぽいよね。ここでは使い道なかったけど、**キーワード**ってカキンってまとまってる感じ。全体を通じて繰返される重要語だったり、答に使うべき言葉だったり、段落の「見出し」に使える。

⑦特に第1、2形式段落に問題提起や結論が書いてあるってことからすると、この話は、「ヴィーナスは両腕を失ったから魅惑的な美術品となった」ってことだ。そこで、皆さんは、「ここ」⑥疑問点をみつけましたか？

「なんで。普通、腕とかなかったら」「ミじゃん！フィギュアだって買い取りしてくれんしー！」って思いましたか？思わなかった？どーだっというし、そんなこと・・・って、そーだわな。いやいや、とにかく、「ここ」疑問点なの！

⑧筆者の主張は一般人と逆なの！「じゃ、何で腕がないと芸術的なの？説明してみ？オラ、オラッ！へん、できんでやんの！」「というのが偽らざる筆者の本音であろう。（清岡さんごめんさい。疲れて調子こいてます）ハイ、第2形式段落いきましよう！教科書に傍線とか引いて。

問1「思いがけなく」と同様の表現を文中から、あと4つ探せ。

問2擬人法が用いられている部分を抜き出し、最初と最後五文字づつ書け。

問3他の修辞法で気づくものを指摘せよ。

問4自分で「これ、どうということ」って思える疑問点をみつけよ。

問5キーワードっぽい言葉を見つけ、本文の別な語句で言い換えよ。

「問4、問5ってムチャクチャな問題じゃない？」って、しょーがないっしょ。「国語」がでまきのめつうになるってというのは、自分でそういうのに気づくってことなんだから。文理関係なく、大学で学ぶってというのはそんな風に問題意識を持つことなの！

②パロス産の大理石でできている彼女は、十九世紀の初め頃、メロス島でその農民によりC思いがけなく発掘され、フランス人に買い取られて、パリのルーヴル美術館に運ばれたといわれている。その時、D彼女はその両腕を、故郷であるギリシャの海か陸のどこか、いわば生臭い秘密の場所にうまく忘れてきたのであった。いや、もったいなく確に言うならば、彼女はその両腕を、自分の美しさのために、無意識的にD隠してきたのであった。E①よりよく国境を渡っていくために、そしてまた、E②よりよく時代を超えていくために。Fこのことは、僕には、G①特殊から普遍への巧まざる跳躍であるようにも思われるし、また、G②部分的な具象の放棄による、ある全体性への偶然の肉薄であるようにも思われる。



② 段落の特殊から普遍への巧まざる跳躍だとか部分的な具象の放棄による、ある全体性への肉薄だとか、よくわからないのは当然で、読者に「どういうこと？」と思わせて、次を読みたくさせるテなのです。へっ？読む気が失せた？ま、まあ、とにかく、③ 段落以降に説明が来るんですよ。ハイッ、傍線引いて。

問1 「逆説をくない」と言っているが、何が「逆接」っぽいのか？

問2 ミロのヴィーナスの美しさを「均整の魔」と言っているのは何故か。

問3 なぜ「腕がく復活するのを恐れる」のか。

③ 僕はここで「逆説を弄しようとしているのではない。これは僕の**実感**なのだ。ミロのヴィーナスは、言うまでもなく、**高雅と豊満の驚くべき合致**を示しているところの、**いわば美というものの一つの典型**であり、その顔にしる、その胸から腹にかけてのうねりにしろ、あるいはその背中の広がりにしる、どこを見つめていても、ほとんど飽きさせることのない**均整の魔**がそこにはただたえられて**いる**。しかも、それらに比較して、ふと気づくならば、**失われた両腕は**、ある捉え難い神秘的な雰囲気、**いわば生命の多様な可能性の夢を深々とたたえている**。つまりそこでは、大理石でできた二本の美しい腕が失われた代わりに、存在すべき無数の美しい腕への暗示という、**不思議に心象的な表現が思いがけなくもたらされた**のである。それは、確かに半ばは**偶然の生み出したもの**だろうが、なんと**という微妙な全体性への羽ばたき**であることだろうか。その雰囲気に一度でも引きずり込まれたことがある人間は、そこに具体的な二本の腕が復活することを、ひそかに恐れるにちがいない。たとえば、それがどんなにみごとに二本の腕であるとしても。

問1 「逆説」というのは、「急がば回れ」のように「一見、逆のようだが真実を言い表した言葉」なわけで、**ここでは筆者が「腕がないから芸術的なんだ」って言ってること**。まあ、そんな乱暴な言い方じゃないけど。「腕を失ったのは特殊から普遍への跳躍だ、部分的なくだ」では、逆接って感じじゃないね。**I**ここでは、**逆説を弄しても遊んでない**＝**僕の実感**だーと強調してる。**③** 段落1行目には「僕」「僕」って出てくるし、「なのだ」と断定してるので、**筆者独自の考えを思いっきり強調している**。つまり、その後ろが超重要！

問2 「魔」というのは「魔物」「魔力」といった、神秘的な人知を越えた何か。

「均整の魔」(人間業と思えない、均整・バランスの美しさ・魅力)でしょうか。

問3 なぜなら、「腕が復活する」と腕がないことで生じていたある捉え難い神秘的な雰囲気や生命の多様な可能性の夢が失われ、両腕のないヴィーナスの無数の美しい腕への暗示という、不思議に心象的な表現が消えてしまうから。

③ 段落の文章構成を見てみましょう。これこそ均整の魔ッ！

― 逆説(腕がないから芸術的)を弄してもあそんでいるのではない(実感)

ヴィーナス(体)・・・高雅と豊満の合致 いわば 美の典型＝均整の魔

しかも それら顔と背中とかと比較して

失われた両腕ある神秘的な雰囲気 いわば 生命の可能性の夢

つまり

両腕の喪失(腕のない体)・・・存在するはずの無数の美しい腕を暗示

思いがけなく不思議なことに心象的な表現  
偶然

微妙な全体性への羽ばたき(跳躍)  
イメージ

だから(とは本文にないが)

\* 両腕のないヴィーナスの魅力を知った者は、本当に存在したヴィーナスの両腕がたとえどんなにみごとな二本の腕であろうとも、復元されることを恐れる。

どうです？ 美しいですね。まず、「ふざけてないよ。本気なんだから！」と強調しておいて、「言うまでもなく(もちろん)」、体(顔も含む)は美しい。それに比べ、しかも(その上)、失われた腕はもっと美しい。

いわば(言ってみれば)という接続詞言い換え⑤を用いて対句的にも見事です！とくに、体の方は「魔」、(無い)腕の方は「神」という字を使っているなんてまさに「カミ？」すげえです。「魔」より「神」の方が上だから、より美しい。

次に、つまりで体と(無い)腕をまとめる。つまり 以下の内容は、体だけでも腕だけでもなく、腕のない体＝ミロのヴィーナスそのものなんです。本文の



4 したがって、僕にとつては、ミロのヴィーナスの失われた両腕の復元案というものが、全て興ざめたもの、滑稽でグロテスクなものに思われてしかたがない。もちろん、そこには、K失われた原形というものが客観的に推定されるはずであるから、全ての復元のための試みは正当であり、僕の困惑は勝手なものだろう。しかし、失われていることにひとたび心から感動した場合、もはやそれ以前の失われていない昔に感動することはほとんどできないのである。なぜなら、ここで問題となっていることは、表現における量の変化ではなくて、質の変化であるからだ。表現の次元そのものが既に異なってしまっている時、対象への愛と呼んでもいい感動が、どうして他の対象へ遡ったりすることができるだろうか？ 一方にあるのは、おびただしい夢をはらんでいる無であり、もう一方にあるのは、たとえそれがどんなにすばらしいものであるうとも、限定されてあるところのなんらかの有である。

## 問1

両腕の復元案・・・(興ざめ)、(滑稽)、(グロテスク) ↑ 僕の思い

もちろん 客観的推定は正当なので ↑ 僕の(勝手な)困惑

しかし

(腕のない)ヴィーナスに感動したら、(腕のある)ヴィーナスに感動するのムリ

なぜなら

両腕の復元は、表現における a(量の変化)ではなくて、b(質の変化)だから

a から b へと(表現の次元)が異なってしまったら、もう(愛せん・感動できん)

一方(腕のない)ヴィーナスは、夢メカ盛りの(無)

もう一方(腕のある)ヴィーナスは、どんなに素晴らしくても限定的な(有)

問2 K 「失われた原形というものが客観的に推定される」というのは、「元々ヴィーナスについていた両腕を(勝手な想像などではなく)科学的根拠(発掘調査とか文献研究とか)にもとづいて推定(推理し確定)していくこと」

問3 両腕の復元が、単に量の変化ではなくて、質の変化であるという理由

「両腕の復元は、単なる腕の有無(体積や重量の増加)といった量的変化を意味するのではなく、失われた両腕が持っていたある捉え難い神秘的な雰囲気、いわば①生命の多様な可能性の夢を失わせ、存在すべき無数の美しい腕への暗示という、②不思議に心象的な表現を奪う質的变化であるから。」

太字①②を使うだけでもよい。波線部の主述が乱れないようにするのが大事。



⑤ 段落は、いきなり「例えば」ではじまります。いったい何の「例」でしょう？  
⑫ 「例えば」は言いたいことの具体例。前後には抽象的な「まとめ」あり。

「例えば」と書いてなくても、「例え」と思われる具体的記述を見つけたらそれを( )でくくる癖をつけるとよいでしょう。その前後にある「まとめ」には傍線を引きます。というわけで、前の④段落を探すと、「両腕の復元案」というもの( )が見つかります。後ろは・・・ハイ、ありました！「復元案」。

段落全てが「例」という場合は、前後の段落で探します。段落内なら、「例え」の前後の文。もちろん前か後ろか、片方にしかない場合もあります。

⑬ 小論文では「主張(問題提起)」書いて、次の段落で「理由(説明・具体例)」書いて、最後に「まとめ(主張)」を書きます。「理由」の段落の次に、「逆の理由(反例・仮定)」を入れると、ヒネリが効いてもっと説得力が増します。

問1 L 「例えば」に続く具体例の文章の末尾の一字を書け。( )

問2 M 「実証的に」とは具体的にはどのようにすることだと思いか、延べよ。

問3 N 「むなしい気持ちに襲われる」理由を本文の語句を用いて答えよ。

問4 O 「真の原形を否認したい」理由を「芸術」という語を用いて説明せよ。

⑤ L 例えば、彼女の左手はりんごを掌の上に載せていたかもしれない。そして、人柱像に支えられていたかもしれない。あるいは、盾を持っていただろうか？ それとも、笏しゃくを？ いや、そうした場合は全く異なつて、入浴前か入浴後のなんらかの羞恥の姿態を示すものであるのかもしれない。更には、こういうふうにも考えられる。実は彼女は単身像ではなくて、群像の一つであり、その左手は恋人の肩の上にもおかれていたのではないか、と。~~~~~復元案は、**M**実証的に、また想像的に、さまざまに試みられているようである。僕は、そうした関係の書物を読み、その中の説明図を眺めたりしながら、**N**恐ろしくむなしい気持ちに襲われるのだ。選ばれたどんなイメージも、既に述べたように、失われていること以上の美しさを生み出すことができないのである。もし真の原形が発見され、そのことが疑いようもなく僕に納得されたとしたら、僕は一種の怒りをもって、その**O**真の原形を否認したいと思うだろう、まさに、芸術というものの名において。

問1「末尾の一字は（と）」

「句読点は一字に数えますか」なんて言うなよ。「。では判別できんだろ？」

問2 M「実証的に」とは具体的に〜と思うか、延べよ。というのは、具体的に、自分の思ったことを自分の言葉で書け、と言っているわけで抜き書きじゃない。「発掘調査をする」「文献を研究する」「他の似た彫刻と比較研究する」等。

問3 N「むなし〜襲われる」理由を本文の語句を用いて答えよ。というのは、「理由」は文末を「くから」に。「用いて」は「抜き出し」ただけでは×  
真の原形として選ばれたどんなイメージも、両腕を失ったヴィーナス以上の美しさを生み出すことができないから。

問4 O理由を「芸術」という語を用いて説明せよ。

真の原形は（が）、両腕を失ったヴィーナスに比べ、芸術として劣るから。

「理由を」「説明せよ」だから「くから。」と答える。単なる「語句の説明」や「むなし〜襲われるとか説明 せよなら「〜という」と答える。ちなみに「語」は単語・一語・熟語のこと。「語句」は「語」や「句」なので、一語の場合ももう少し長い場合もある。「一文を抜き出せ」だったら、文の始めから「。」「。」「部分」と言われたら、「一文の中の一部」。ただし、問題文で「前の部分から抜き出せ」という場合の「部分」ももっと広い。「前の方から」と言っているだけ。

このような国語の授業やテストでしかお目にかかれない言葉を、岩佐は「業界用語」と言っているが、「読書好き」「話は理解できる」「けれど、テストで点が取れない人は、結構、こういう「業界用語」をきちんと理解してない人かもしれない。また、そそっかしい人、記憶の苦手な人は、問題の条件がいくつも重なっている」と、「わかった!」と思っても条件に合った正しい答え方をしていなかったり、条件の一つを忘れて答えたりして×になりやすい。

例えば、「①前の段落から②一文を抜き出し、③最初と最後の五文字を抜き出せ。④ただし、句読点も一字に数える。」という問題又は条件が4重にある。これはよく見かける問題なので、みんなも慣れてるし、解答欄にマス目もあるので間違える人は少ないが、見慣れない条件の問題は、条件がいくつあるのか確認して自分の解答をチェックするとよい。また、解答欄を間違えたりするミスも多い。大学入試で後悔しないよう口頭から気をつけよう。

⑬問題はよく読んで条件にあった答え方をする。解答は必ず見直しをする。

⑥ 段落は短い。形式段落がたった一行という場合もある。その一行が筆者にとつて重要なのだ。強調の手法とも言える。⑥ 段落も短いが重要だ。

問1 この段落における筆者の主張を、三種類の書き出しでそれぞれまとめよ。

- ① 興味深いことごとく
- ② 失われたものが両腕だからこそ
- ③ 生命の変幻自在な輝きは、

⑥ ここで、別の意味で興味があることは、失われているものが、両腕以外の何かであってはならないということである。両腕でなく他の肉体の部分が失われていたとしたら、P 僕がここで述べている感動は、恐らく生じなかったにちがいない。(例えば、目が潰れていたり、鼻が欠けていたり、あるいは乳房がもぎとられていたりして、しかも両腕が損なわれずにきちんとしていたとしたら、)そこには、生命の変幻自在な輝きなど、たぶんありえなかったのである。

興味があること・・・喪失したのが) じゃダメじゃない

例えば) (とかがなくて) しかも) (があったらダメ!

P 僕が感動して何?

本文で( )

)

問1 ① 興味深いことに、失われてたものが両腕以外の他の肉体の部分では、生命の変幻自在な輝きは得られないということである。

- ② 失われたものが両腕だからこそ生命の変幻自在な輝きがあるのであり、両腕以外の肉体の部分ではそれはあり得ない(ということとは興味深い)。
- ③ 生命の変幻自在な輝きは、両腕が失われたからこそ生じたのであって、それ以外の部分の喪失ではありえない(ということに興味を覚える)。

喪失したのが(両腕以外)じゃダメ。

例えば(鼻)とかがなくて) しかも(両腕)があったらダメ!

P (ヴィーナスは両腕がないから芸術として素晴らしい)とかが、前に( )ばい書いたようなこと。本文で( ) (生命の変幻自在な輝き)

問1の問題は、「いろんな答え方」の練習。「興味がある」という部分は書かなくてもいい。書かない方が主張がすっきりする。

それにしても清岡さんは凄い！「ヴィーナスに両腕がないからこそ、いろんな空想ができて素晴らしいんだ」っていう着想も凄いいけれど、喪失したのが「腕以外じゃダメ」。この寧ろにも、「しかも」を使って（鼻なし＋腕あり＝×）、書いてないけど、（鼻なし＋腕なし＝○ あまの醜くっでは×でしようけど）と詳しく説明している。さらに、次の⑦段落では「なぜ腕なのか」と考へていく。

最終段落なので注意深く読み、傍線などのチェックを入れてください。

最後なので問題も気合いを入れて、考查問題っぽくしました。（答は次で）

⑦なぜ、失われたものが両腕でなければならぬのか？ 僕はここで、彫刻におけるトルソの美学などに近づこうとしているのではない。腕というもの、もつと切り詰めて言えば、手というものの人間存在における象徴的な意味について、注目しておきたいのである。それが最も深く、最も根源的に暗示しているものはなんだろうか？ ここには、実体と象徴のある程度の合致がもちろんあるわけだが、それは、世界との、他人との、あるいは自己との、千変万化する交渉の手段である。言い換えるなら、そうした関係を媒介するもの、あるいは、その原則的な方式そのものである。だから、機械とは手の延長であるという、ある哲学者が用いた比喻はまことに美しく聞こえるし、また、恋人の手を初めて握る幸福をこよなくたたえた、ある文学者の述懐は不思議に厳肅な響きを持っている。どちらの場合も、極めて自然で、人間的である。そして、例えばこれらの言葉に対して、美術品であるという運命を担ったミロのヴィーナスの失われた両腕は、不思議なアイロニーを呈示するのだ。ほかならぬその欠落によって、逆に、可能なあらゆる手への夢を奏でるのである。

問1 「それが最も深く、最も根源的に暗示しているもの」と同じ内容の語句を前の部分から抜き出せ。

問2 「実体と象徴」とあるが、例えば「握手」という言葉の①実体と②象徴的意味をそれぞれ説明せよ。

問3 「そうした関係を媒介するもの」とあるが、主語は何か。

問4 「不思議なアイロニー」とあるが、それはどういうことか。次の語句に続く形で説明せよ。

不思議なことだが、皮肉にもミロのヴィーナスは

最終段落だけあって、なかなか難解です。傍線だらけですねー。

7なぜ、失われたものが両腕でなければならぬのか？ 僕はここで、彫刻におけるトルソの美学などに近づこうとしているのではない。腕というもの、もつと切り詰めて言えば、手というものの人間存在における象徴的な意味について、注目しておきたいのである。Qそれが最も深く、最も根源的に暗示しているものはなんだろうか？ここには、実体と象徴のある程度の合致がもちろんあるわけだが、Rそれは、世界との、他人との、あるいは自己との、千変万化する交渉の手段である。言い換えるなら、Sそうした関係を媒介するもの、あるいは、Tその原則的な方式そのものである。だから、( ) 機械とは手の延長であるという、ある哲学者が用いた比喩はまことに美しく聞こえるし、また、恋人の手を初めて握る幸福をこよなくたたえた、ある文学者の述懐は不思議に厳粛な響きを持っている。( ) どちらの場合も、極めて自然で、人間的である。そして、( ) 例えばこれらの言葉に対して、 美術品であるという運命を担ったミロのヴィーナスの失われた両腕は、不思議なアイロニーを呈示するのだ。ほかならぬその欠落によって、逆に、 可能なあらゆる手への夢を奏でるのである。( )

まず、第一文で「なぜ、失われたものが両腕でなければならぬのか？」と問題提起をしています。

⑭筆者からの問いかけは、読者自身に一瞬、「???」と考えさせる効果があるので、強烈なインパクトのある問題提起で、当然、後に答が書いてあります。次に、第一文の答を解くために「腕(手)の象徴的な意味」について考えよう、と二回目の問題提起をしています。Q「それ(手)がくなんだろうか？」ですね。この文の「根源的に」というのは前の文の「人間存在における」に対応するし、「象徴する」という言葉の意味は「暗示する」ということなので、問1の答は、「人間存在における象徴的な意味」。

次に、「ここにはくわけだが、」という部分ですが、読者に「○○なんですけどねー」と一応、断って(言及して)いるわけです。例えば、

「非常食はたべられるのか？ここにはパンも水もあるわけだが、非常食は非常時の食料である。今は非常時ではないのでくみたいな。単なる付け足し。でも問2は付け足しだけど、意味は分かっているかなくと思って質問してみた。例えば、「両国は握手した」というふうにと考えると、「握手」の①実体は「親愛の気持ちを含めて互いに手を握り合う行為」②象徴の意味は「和平・協力」

Q「T」の構造を考えてみよう。

なぜ、失われたものが両腕でなければならぬのか？ (もともと問題提起)

トルンの美学など関係ないから

手というもの人間存在における象徴的な意味

注目

Qそれが最も深く、最も根源的に暗示しているものはなにか？ (問題提起)

\*一言言っとくと実体と象徴はある程度、合致するけどね

\*握手(手を握ること)＝協力・和平

\*環境・人・自身との関係作るのが手

Rそれは、世界・他人・自己との千変万化する交渉の手段

言い換え

(それは) S同じした関係を媒介するもの

あるいは

Tその原則的な方式そのもの

問3S「媒介するもの」主語は、省略された(それ)＝「手」(右図参照)お

\*環境・人・自身との関係作るのが手だから

【**比喩**】 a 機械とは手の延長という言葉(ある哲学者の比喩)・・・美しい

(例) b 恋人の手を初めて握る幸福を贅えた言葉(ある文学者の述懐)・・・

・・・不思議に厳粛な響き

a bとも極めて自然で、人間的

＜ a b の言葉に対して逆に＞



【**例えば**】 ヴィーナスの失われた両腕は、不思議なアイロニーを呈示する

(皮膚)

手の欠落によって、逆に、可能なあらゆる手への夢を奏でる

手(腕)というものは、人間が生きてく上での① ( ) を持っている。なぜなら

手は環境や人や、時には自分自身との関係を作るものだから。だから機械のことを手の延長だと言ったり、恋人の手を握ることに感動したりするのは、すっげー

② ( ) なことなんだ。

つまり現実にある手は人間にとってなくてはならないもの。

「人間のあつちよつた」

手とはそういうものだからじゃ。

ヴィーちゃんの存在しない手(両腕)は③

(を見させてくれるわけ。

手がないから逆にあらゆる手(関係性)を表現できる。「これって皮肉じゃね？」

「わあ、あつちよつた。逆説的イヤー。スゴクなごう。」

言い換えると

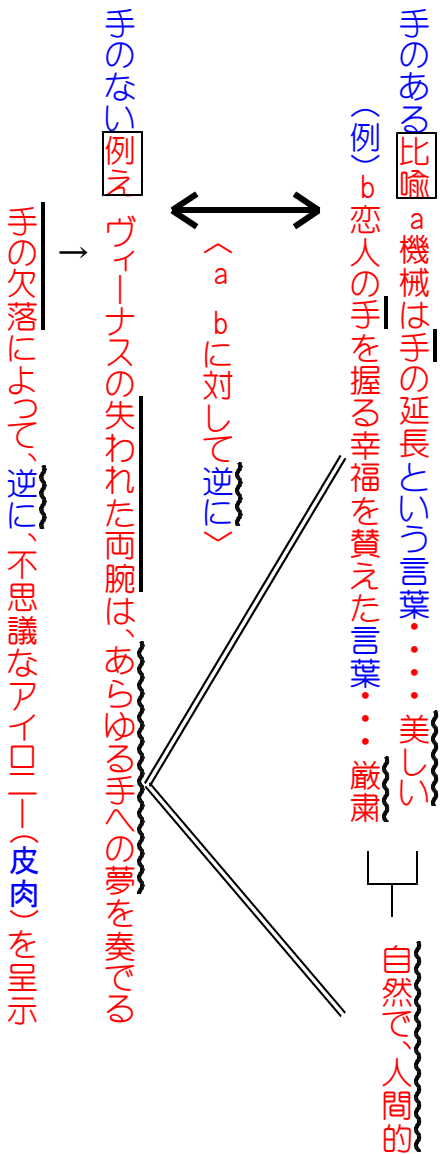
存在しない手(両腕)が③(を見させてくれるのは、手が他の体の部位と違って、

①( )を持つから。だからヴィーちゃん「なごのは両腕でなくちよつたごう。」

で「これって皮肉じゃねー」ってタビへん(④) (は言っているわ。

- ① 象徴的な意味
- ② 自然で、人間的
- ③ あらゆる手への夢
- ④ 清岡卓行

最後に、なぜヴィーナスが **例えは** なのだろう、ということにふれておきたい。  
乱暴な言い方をすれば、「他にも同じような例はあるかも知れんけど、ヴィーナスを例にとるとね」と言っているわけだ。「同じような例」というのは、手がないことで逆に手の持つ象徴的な意味を感じさせてくれるものごと。  
図をちよつと書きかえてみるとわかりやすい。



右の「あらゆる手への夢」というのは、「ヴィーナスは恋人の肩に手を置いてるんじゃないか」とか「腰布を押さえてんだ」とかロマンチックなものから下品なものまで、ありとあらゆる夢想や想像のことで、それはとっても自然で人間的なものだというわけである。

問4 不思議なことだが、皮肉にもミロのヴィーナスは、両腕を失ったことで(逆に) (可能な) あらゆる手への夢を奏でることができるようになったのだ。

